



# 環境科学専攻 集中講義 原子力災害環境影響評価論Ⅱ (01AD701)

(コードシェア：システム情報工学研究科 構造エネルギー工学特別講義X)

概要：

日本原子力機構が取り組む福島復興事業や原発の廃炉措置に関する研究および緊急時対応について紹介する。



開講時期：H28年7月5日(火)、6日(水)、8日(金)

単位：1.0単位 **教室：2C101 教室を変更しました！**

	時間	内容	教員 (日本原子力研究開発機構)
5日 (火)	3限	福島第1原子力発電所事故後のJAEAの取り組み(全体概要)	福島環境安全センター 時澤 孝之
	4限	放射能マップはこうしてできあがる	福島環境安全センター 斎藤 公明
6日 (水)	2限	放射性Csの吸脱着メカニズム	物質科学研究センター 矢板 毅
	3限	燃料デブリ取り出しに向けた研究	廃炉国際共同研究センター 倉田 正輝
	4限	モデル除染、除染技術と中間貯蔵施設の概要	福島環境安全センター 川瀬 啓一
	5限	高度化する無人モニタリング技術	福島環境安全センター 眞田 幸尚
8日 (金)	2限	櫛葉遠隔技術開発センターと原子力災害対応ロボット	福島研究基盤創生センター 川妻 伸二
	3限	放射性廃棄物の処理・処分に向けた研究	廃炉国際共同研究センター 大井 貴夫
	4限	福島長期環境動態研究	福島環境安全センター 新里 忠史
	5限	防災研究への活用	福島研究基盤創生センター 中山 真一

**Twins 登録締切 6月20日(月)**

詳細な連絡はmanabaを通して行います。必ず確認するようにしてください。

担当：恩田裕一 生命環境系教授 [onda@geoenv.tsukuba.ac.jp](mailto:onda@geoenv.tsukuba.ac.jp)



# 環境科学専攻 集中講義

## 原子力災害環境影響 評価論Ⅲ (01AD702)

概要：

原子力災害に対する緊急取り組みの現状と課題について紹介する。

開講時期： H28年7月7日（木）、11日（月）

単位： 1.0単位 教室： 総合研究棟 A-107



	時間	内容	教員
7日 (木)	2限 3限	農地土壌における放射性 Cs の挙動	農業・食品産業技術 総合研究機構 江口 定夫
	4限 5限	河川流域における福島第一 原発事故由来の放射性 Cs の 動態	国立環境研究所 林 誠二
11日 (月)	1限 2限	環境放射線モニタリング（平 常時から緊急時まで）	青森県 木村 秀樹
	3限 4限	放射性物質の大気沈着・拡散 過程と化学輸送モデル	気象庁気象研究所 五十嵐 康人
	5限	低濃度の水中の放射性 Cs の 測定手法とその標準化	産業技術総合研究所 保高 徹生
	6限	除染の費用と効果、放射性 Cs 含有土壌の減容化技術	

**Twins 登録締切 6月20日（月）**

詳細な連絡は manaba を通して行います。必ず確認するようにしてください。

担当： 恩田裕一 生命環境系教授 [onda@geoenv.tsukuba.ac.jp](mailto:onda@geoenv.tsukuba.ac.jp)



# 環境放射能動態解析論 I (01AD703)

概要：

放射線の生物・動物影響の基礎から、環境中の極微量放射性核種測定や分布・挙動に関する最先端の研究を紹介する。



開講時期： H28 年 7 月 12 日（火）、13 日（水）

単位： 1.0 単位 教室： B502

	時間	内容	教員 (量子科学技術研究開発機構)
12 日 (火)	1 限	海洋環境における放射性核種の分布と挙動 1	青野 辰雄
	2 限	海洋環境における放射性核種の分布と挙動 2	青野 辰雄
	3 限	環境中の人工放射性核種 プルトニウム	鄭 建
	4 限	環境中の放射性核種分析法	鄭 建
	5 限	放射線による生物影響 植物編	渡辺 嘉人
	6 限	放射線による生物影響 動物編	府馬 正一
13 日 (水)	2 限	環境中の自然放射性核種 -ウラン-	サファー サラタ クマール
	3 限	環境中の自然放射性核種 -トリウム-	サファー サラタ クマール
	4 限	放射線による人体影響 外部被ばく	矢島 千秋
	5 限	放射線による人体影響 内部被ばく	金 ウンジュ

Twins 登録締切 6 月 20 日（月）

詳細な連絡は manaba を通して行います。必ず確認するようにしてください。

担当：恩田裕一 生命環境系教授 [onda@geoenv.tsukuba.ac.jp](mailto:onda@geoenv.tsukuba.ac.jp)